

## 【抱えていた課題】

- ・ AWS日本リージョンで、業種に特化した業務アプリケーションのクラウドサービスを提供する日本国内のシステム開発会社 A 社様で発生した課題。

中国国内の複数拠点の複数端末からのアクセスで利用を開始した。ところが、データの送受信において頻繁に遅延が発生し、業務に大きな影響を与える懸念が高まった。本サービスは商用のため、この課題解決は急務となった。

## 【採用に至った経緯、ポイント】

- ・ 多拠点・複数端末からのアクセスで、且つ拠点や端末は都度変わる利用形態であるため、拠点毎への接続用ルーターの設置や端末側での特別な設定が不要な仕組みのサービスを選定する必要があった。
- ・ IX-NETが上記の要件を満たす唯一のサービスであった。
- ・ IX-NETは、端末の接続台数による課金制ではなく、必要な通信帯域に対しての課金制であることから運用コストを抑えられるのが採用の決め手となった。

## 【導入効果】

中国－日本間で安定した通信経路が確保できたことで、データ遅延は解消されて業務効率が改善した。

利用拠点や利用端末が変わった際にも、拠点側にルーター設置が不要なサービスプランを採用したので、利用するアプリケーション側の設定作業のみで済ませることができ、運用が大変楽になった。

## 【サービス名】

- ・ IX-NET 2Mbps帯域保証

